

高島市小中一貫教育

「つながり響き合う教育」

1 はじめに

平成 19 年度に 1 小 1 中の中学校区である高島小・中学校が文部科学省研究開発校の指定を受け、3 年間にわたって小中一貫教育について研究し、平成 22 年度に小中一貫教育校高島学園を開校した。同時に、他の 5 中学校区においても本市教育委員会の指定研究として小中一貫教育の研究に取り組み、その成果を確認して、平成 26 年度に本格実施した。それ以降、各中学校区において特色ある小中一貫教育の取組を推進している。本年度より、高島市小中一貫教育の「NEXT ONE」を求めて、新たな挑戦を始めた。

2 つながり響き合う教育

(1) 人とのつながり

- ア 中学校区を単位とした小中学校の全教職員がつながり、指導方法の工夫改善に努め、より質の高い教育を行う。
- イ 義務教育 9 年間の発達段階を前期、中期、後期の 3 つに分けた教育活動を実施し、異年齢集団における子どものつながりを軸とした取組を通して、豊かな人間性を育てる。

(2) 指導と学びのつながり

ア 高島市小中一貫教育標準カリキュラムの活用

就学前からの子どもの発達段階と学びの段階を考慮した指導の方向性を明確にした、高島市小中一貫教育標準カリキュラムに基づいた教科指導を行い、9 年間の学びにつながりをもたせ、学習意欲と学力の向上を図る。

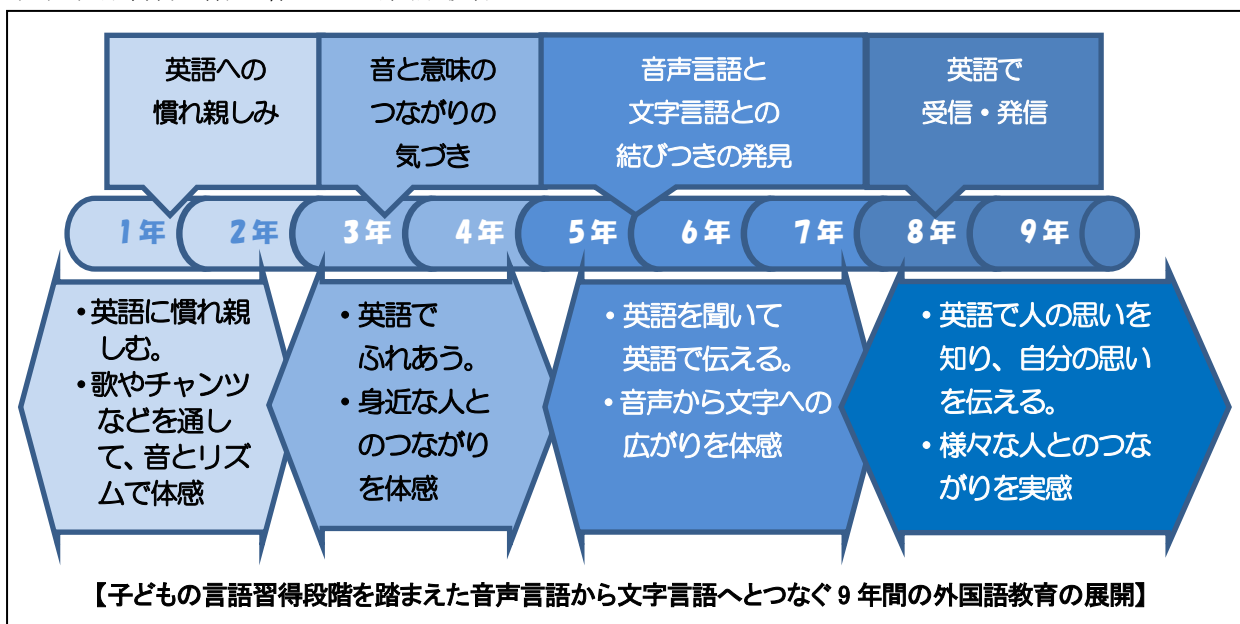
イ 小中一貫した 9 年間の外国語教育

子どもの言語習得段階を踏まえ、音声言語から文字言語へとつなぐ 9 年間の連続性のある外国語教育を推進し、子どもたちの外国語に対する興味関心を高め、コミュニケーション能力の育成を図る。

ウ 「特別の教科 道徳」の充実

3 具体的な取組内容

(1) 言語習得段階を踏まえた外国語教育



①音声指導を中心とする外国語の授業（1～4年）

英語の歌やチャンツによるリズムの体感やカードや映像を用いて英語でのやりとりを中心とした、音声から入る授業づくりを行う。

②文字の自然な導入（5～7年）

十分に英語でのやりとりを積み重ね、文字への関心が高まる活動や環境の設定をした上で、なぞったり、模写したり、指で追って読んだりするなど段階を経て文字指導を行う。

③自分の思いを発信（8～9年）

積み重ねた英語を用いて自分の思いを発信し、より多くの人とのつながりを実感できる外国語教育へと発展する。

(2) 実施体制

①高島市立教育研究所指導主事による小学校への巡回指導

- ・協働授業と授業づくりへの支援
- ・指導力向上研修の実施

②中学校区ごとの授業研究の実施

- ・中学校英語科教員と小学校教員の共同授業研究

③イングリッシュ・デイキャンプの実施

- ・小学生を対象とした学校外活動としての外国語教育



4 成果（進捗状況）と今後の課題

(1) 音声指導中心の成果

①小学校1～4学年

1、2学年では音を聞いて、英語を聞いたままに発音する。リズムカルで、歌詞が繰り返される歌を、いろいろな手法で、聞かせ、歌わせることにより歌えるようになった。歌や簡単な英語でのやり取りを何度も積み重ねると、3、4学年では、音と意味とがつながり、歌に自分の思いをのせて、変えて歌ってみたり、実際のやりとりの中で自然と英語で伝えたりできるようになった。

②小学校5～6学年 中学校1学年

知的好奇心の高まりから興味・関心を抱く場面設定により、自ら英語に耳を傾け、自分の思いを伝える意欲を高め、その場にふさわしい英語を用いて表現するようになった。また、相手を意識したやり取りが可能となり、場面設定の工夫が大切であることが確認された。

(2) 音声から文字への導入

言葉で伝える活動を繰り返した後は、メッセージとして書いたものを届けたいという思いを高めた。そうして、子どもの関心は文字へと移り、「Happy Birthday!」などの言葉をなぞったり、書き写したりした。気持ちを伝えるために書く活動へと移行したことが文字との新鮮な出会いとなった。

(3) 今後の課題

「文字ありき」であった外国語教育からの脱却を図り、改めて音声指導の重要性を確信した。今後の課題としては、生き方につながる外国語教育の展開である。小学校の学びを基盤として、広く発信しようとする意欲を高め、豊かな表現力を身につけるための後期における外国語教育の在り方について追究したい。